《情報公開文書》

肺アスペルギルス症に対する外科手術成績の変遷

研究の概要

【背景】

肺アスペルギルス症は「カビ」の一種が起こす呼吸器疾患で、肺結核の既往がある患者さんに多く見られますが、近年では免疫が抑制された患者さんの発症が多くなっています。基本的には抗真菌薬の治療が行われますが、時として外科手術が行われます。ただし度重なる炎症で胸腔内が癒着することで手術が難しくなることがあります。近年は内視鏡を用いた手術や薬物療法の発達によって、手術の安全性が高まっていることが予想されます。

【目的】

今回当院で手術を受けた肺アスペルギルス症の患者さんを治療年代で分け、肺アスペルギルス症の発症原因の変化と、手術成績が向上しているかを明らかにしたいと思います。

【意義】

本研究を行う事で、肺アスペルギルス症に対するより安全な外科治療戦略を確立する事が期待されます。

【方法】

カルテ情報を用いて、肺アスペルギルス症の手術成績が向上しているかを明らかにしたいと思います。今回 2009年12月31日までに手術を受けた患者さんを前期、2010年1月1日から2023年12月31日までに受けた方を後期と定義します。手術成績とは重篤な手術合併症の頻度と、肺アスペルギルス症の再発がないかどうかで、評価します。

対象となる患者さん

1992/6/1～2023/12/31の期間で、肺アスペルギルス症と診断、もしくは疑われて手術を受けた患者さん

研究に用いる情報

●利用する情報

- ①患者さんの背景：性別、年齢、身長、体重、BMI、既往歴（結核歴、手術歴）、ステロイド投与の有無
- ②自覚所見：血痰、喀血、微熱、胸痛などの自覚症状
- ③臨床検査：白血球数、CRP、ヘモグロビン値
- ④胸部CT所見：空洞形成の有無、結節の有無

<p>⑤抗真菌薬投与の有無：術前抗真菌薬の用法・用量、服薬期間</p> <p>⑥アスペルギルス再発の：胸部 CT・採血結果を元に判断します</p> <p>⑦抗真菌薬の副作用：具体的な副作用の症状とその程度</p> <p>⑧手術情報：開胸法、手術時間、出血量、合併症の有無</p> <p>本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。</p>	
情報の利用開始予定日	
<p>本研究は 2024 年 9 月 12 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。</p>	
<p>あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。</p> <p>ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。</p> <p>あらかじめご了承ください。</p>	
研究実施期間	
<p>研究機関長の許可日～2025 年 6 月 30 日</p>	
研究実施体制	
研究責任者	<p>所属：長崎大学病院 腫瘍外科</p> <p>氏名：松本 桂太郎</p> <p>住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1</p> <p>電話：095 (819) 7304</p>
情報の管理責任者	<p>長崎大学病院 病院長</p>
問い合わせ先	
<p>【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】</p> <p>長崎大学病院 腫瘍外科 宮崎 拓郎</p> <p>〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号</p> <p>電話：095 (819) 7304 FAX 095 (819) 7306</p>	
<p>【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）</p> <p>苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200</p> <p>受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）</p>	